

令和5年のヤマネコ交通事故0件！

イリオモテヤマネコの交通事故件数は近年増加傾向でしたが、令和5年は0件で事故なく終わられました。交通事故0件は、コロナ禍の令和2年を除くと、実に25年ぶりのことです。

ヤマネコの交通事故を防ぐため、地域の皆さんや行政機関、地元団体等により、道路の草刈り、注意喚起看板の設置、交通安全運動など、様々な取組が行われています。環境省の「西表島 yuriCargo(ゆりかご)プロジェクト」では、スマートフォンアプリによりドライバーが安全運転の診断を行い、基準を満たすと優良ドライバー認定を受けられます。また、沖縄県では高那地区でのヤマネコ進入防止柵を設置しているほか、交通速度を調査するための速度検知器による調査、ヤマネコの目撃情報収集システムの開発などの取組を行っております。ヤマネコを見かけた際に、目撃情報収集システムに投稿いただければ、その情報をもとに、交通事故対策につなげることができますので、島民の皆様もぜひご協力ください。



県道での草刈りの様子



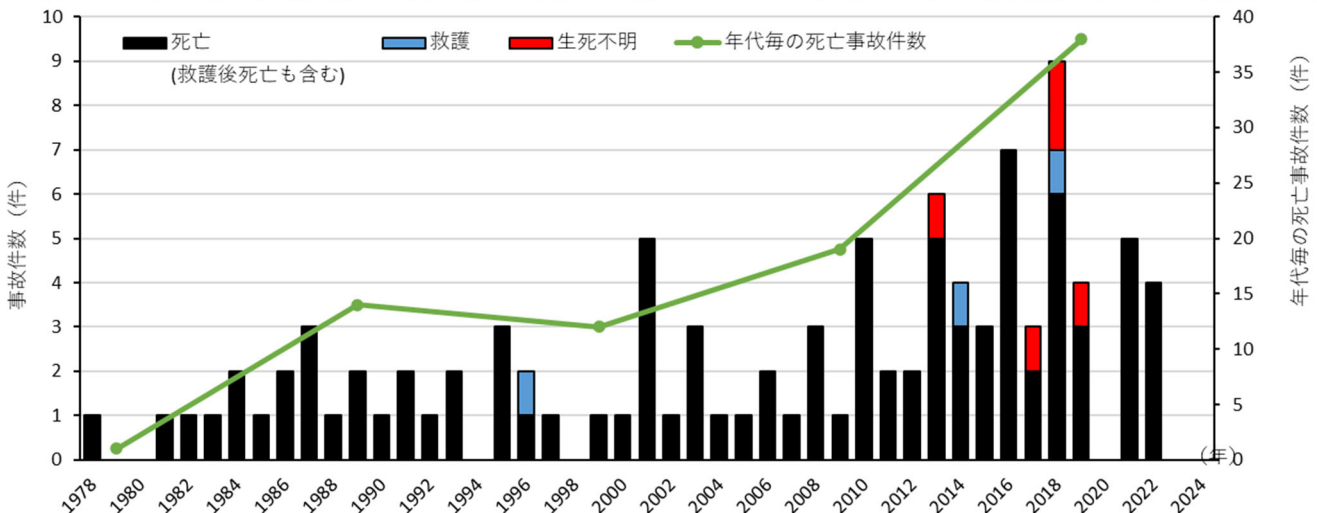
目撃情報収集システムへのアクセス用QRコード
(西表野生生物保護センターHP内)

車の通行の実態調査を実施しました。

沖縄県では、令和3年度から県道の15か所にBluetoothによる調査機器を設置し、交通量と速度の調査を行っています。

夜間の車の走行速度は、法定速度程度の40km/h～45km/hが最も多かったものの、50km/h以上で走行している車も多く見られました。また、レンタカーに絞って分析すると、40km/h以下の割合が高く、夜間に走行する頻度が非常に少ないことがわかりました。

観光客だけでなく地元住民・事業者の皆様も、速度に気を付け安全運転をすることがロードキル防止につながります。よんな～ドライブへのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



イリオモテヤマネコの交通事故件数の推移

世界自然遺産の管理を連携しながら進めています

令和5年度 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産地域連絡会議が開催

令和6年2月21日(水)、世界自然遺産地域連絡会議(事務局:環境省沖縄奄美自然環境事務所)が開催されました。この会議は、世界自然遺産の保全・管理のため関係行政機関間の連絡・調整を図るもので、12市町村が那覇市に集まりました。

今年度は、行政機関からの管理状況報告に加え、世界遺産に関する取組を推進・支援している民間団体(世界自然遺産推進共同企業体など)からも取組紹介がありました。



地域連絡会議における写真撮影の様子

令和5年度の西表島部会を開催

令和5年度の西表島部会(事務局:沖縄県自然保護課)を令和5年8月25日(金)及び令和6年2月13日(火)に開催しました。世界自然遺産である「西表島」の適正な保全・管理の推進に向け、地域で話し合いを行っています。今年度は、西表島の自然環境や観光の状況のモニタリングの手法や体制について議論され、観光による影響を評価するための「西表島モニタリング評価委員会」が設置されました。今後、評価項目や評価手法について検討を進め、西表島の自然環境や地域社会がよい状態に保たれているかどうか、どのような問題がどの程度生じているかを継続的に把握できる体制を作っていきます。



令和5年度第2回西表島部会の様子

民間と連携した取組が進められています

世界自然遺産沖縄基金

世界自然遺産沖縄基金が令和4年6月に設立されました。これは、「沖縄島北部及び西表島」の価値を未来にわたって維持していくため、個人や企業からの寄付を募り、企業や団体、地域住民等の取組を支援する「世界自然遺産沖縄基金助成事業」に活用するものです。令和6年度の助成事業として、3件の調査研究が採択されました。

世界自然遺産沖縄基金は、世界自然遺産推進共同企業体からの要請を受け、一般財団法人沖縄美ら島財団が管理・運営をしています。



世界自然遺産沖縄基金 HP
(<https://churashima.okinawa/wnhof/>)

世界自然遺産に暮らす中高生の未来に向けた取組を開催しました

世界自然遺産の豊かな生物多様性を大切にしたい地域づくりや環境保全活動の活性化に向けて、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の4地域の相互理解と連携を深めようと、環境省の主催により「地域連携ミーティング」が毎年開催されています。

令和5年度は、4地域の中高生がお互いの取組を学び、各地域の生物多様性(世界自然遺産の価値)の保全と、世界遺産地域の暮らしを考えることを目的にそれぞれの活動を報告しました。

西表島の船浦中学校からは、「海を支えるサンゴと私たちの関係」と題して、海洋教育の実践として自分たちで行ったサンゴモニタリングについて発表されました。サンゴをかたどった折り紙なども使って調査結果がわかりやすくマッピングされていて、調査結果を踏まえた考察や今後の活動の抱負も述べられました。この発表に対して、環境省から、「調査方法や考察もよくまとまっていて、中学生の段階でモニタリング手法を習得しているすごい」「西表島でサンゴの保全に取り組んでいる組織があるので、連携を図ることで取組が広がるかもしれない」とコメントがありました。

4地域の発表校と活動発表内容

地域	学校	活動報告内容
奄美大島	大島高等学校	エコツーリズムクラブの活動及び探究活動の現状について
徳之島	樟南第二高等学校	エコツーリズム講座の取組
沖縄島北部	辺土名高等学校サイエンス部	自然環境科及びサイエンス部における活動
西表島	船浦中学校	海を支えるサンゴと私たちの関係



地域連携ミーティングにご参加いただいた生徒

西表島のための「島に優しい取組」を支援する制度を検討しています。

西表島では、地域の事業者や住民の皆様が、ごみの削減や分別、自然に優しい製品の使用、地元産品の活用、地域行事への協力、文化の保存継承など様々な取組を行っており、こうした取組(=「島に優しい取組」)が持続可能な島づくりにつながっていくと考えられます。

沖縄県では、「持続可能な観光」の観点からこのような「島に優しい取組」を掘り起こし、表彰や認定などにより取組を支援する制度を作ることを検討しています。

西表島の「島に優しい取組」の支援のためにどのような制度がふさわしいか情報収集するため、令和5年12月に他地域の事例の勉強会、令和6年2月に西表島東部及び西部で地域の事業者との意見交換会を開催しました。

制度の検討にあたり、次年度以降も住民・事業者の皆様との意見交換を行いますので、ぜひご参加・ご意見をお願いいたします。



勉強会やワークショップの様子

ノヤギ対策の取組を進めています

ノヤギの侵入状況・防除に向けた取組

西表島では近年、古見岳及びその周辺を含む東部地区を中心に、ノヤギ（野生化したヤギ）の侵入・繁殖が確認されています。ノヤギによる植物の食害や林床の踏み付けなどにより、西表島の森林や動植物などへの深刻な影響が懸念されています。

貴重な自然環境を保全するため、県や環境省、関係機関によりノヤギ防除の取組が行われています。西表島東部地区では、ドローンの撮影により34個体のノヤギの群れが確認されています。県の事業では、令和5年度にこの群れの捕獲を重点的に実施し、西表島全体で25個体を捕獲しました。また、環境省も令和6年3月21日時点で25個体を捕獲しました。次年度以降も関係機関が連携して、ノヤギの対策に取り組むこととしております。

また、ノヤギの問題について町民の皆様にも知らせてもらうため、環境省及び竹富町農林水産課の主催により令和5年11月に講演会「ノヤギについて考えよう」が開催されました。ノヤギの生態や生息状況に関する質問や、効果的な駆除方法、捕獲したノヤギの活用等について、活発に意見が交わされました。



古見岳付近で確認されたノヤギ



ドローンで撮影されたノヤギの群れ
(西表島東部地区)

ノヤギの適正飼養に向けた取組を進めます

ノヤギ問題については、駆除を進めて影響を抑える一方で、新しく飼いヤギが逃げ出すなどして野生化してしまわないように、ヤギの適正飼養に向けた取組を進めていく必要があります。

それに向けて、行政機関等の関係者による勉強会を令和5年11月～12月にかけて3回開催し、情報共有や意見交換を行いました。飼いヤギが野生化しないよう飼養ルールの必要性が議論され、西表島におけるルールのあり方について意見交換が行われました。

勉強会の結果なども踏まえて、飼いヤギの野生化を防ぐため、竹富町でヤギの適正飼養に関する条例を制定することも含めて対策が検討されています。



勉強会の様子

